

年度	学年	教科等	指導案URL	資質能力	児童・生徒の姿	指導の具体
R4	複高	道徳	㊦小学校指導案（道徳科）.pdf.pdf	授業構想力	○自分の性格を見つめる教材、偉人を扱う複数教材などを関連づけながら、「なりたい自分像」を考えていた。	学級目標を動機付けとして学習課題を設定し、児童の課題意識を継続させつつ複数教材について学習を進めた。
R5	複高	道徳	11 特別の教科 道徳学習指導案（小学校）.pdf	授業構想力	●「問題解決」を実感することができる課題であったか。	学級目標と社会正義との関係性を児童は意識しにくかったか。
R5	複高	道徳	11 特別の教科 道徳学習指導案（小学校）.pdf	授業構想力	○単元の終末時に、直前の複数時間の内容を加味して自分の考えを記述する。	単元の学習課題を示すとともに、近接した時期に複数時間行う。
R6	小3	道徳	12.1 道徳学習指導案.pdf	授業構想力	○子どもの考えが他の子どもの発言を受けてより広がり、深まっている様子が見られた。	子どもの発言に対して、「例えば？」など、具体を聞くための問い返し発問を行った。
R4	複高	道徳	㊦小学校指導案（道徳科）.pdf.pdf	授業実践力	○授業の終末時のふり返りに価値の捉え直しをしている児童がいた。	付箋やホワイトボードを用いて意見交流を行った。
R4	複高	道徳	㊦小学校指導案（道徳科）.pdf.pdf	授業実践力	▲自己内の情意的な捉えと認知的な捉えを区別して意識することはあまりできていない。	教材を読んだ後の、率直な感想を聞くことをした。（が、うまく言語化できない様子だった。→内包する価値が複雑？）
R4	複高	道徳	㊦小学校指導案（道徳科）.pdf.pdf	授業実践力	○友達の考えを聞くと同時に、自分の気付きを見つめ直すことで、道徳的価値の関連や広がり、類似性に目を向けていた。	友達の考えと自分の考えの共通点や類似点を考えながら発言のタイミングを児童自らが決めるようにした。
R5	複高	道徳	11 特別の教科 道徳学習指導案（小学校）.pdf	授業実践力	○複数の立場でハンセン病問題について考えている。	立場の違いを意識して、意見のつながりや差異を図式化した板書。
R5	複高	道徳	11 特別の教科 道徳学習指導案（小学校）.pdf	授業実践力	○児童の相互指名を中心として意見交流が行われる。	道徳科以外の教科での学習スタイル（見守り型）を取り入れる。
R5	複高	道徳	11 特別の教科 道徳学習指導案（小学校）.pdf	授業実践力	○教師の問いかけについて考える。	児童の考え方に誤りが出たり、深まりを予見させたりするときに発問をする。
R6	小3	道徳	12.1 道徳学習指導案.pdf	授業実践力	○子どもが自分事として考え、自分の言葉で語っている姿が見られた。	中心発問で子どもたちが考える時間を多く設定した。
R4	複高	道徳	㊦小学校指導案（道徳科）.pdf.pdf	授業分析・評価力	○児童のふり返りに対して、あらかじめ授業者が設定した分類の視点に基づいて記述内容を分類できた割合が、6割5分程度であった。	ICEルーブリックを用いて、3つの視点「価値がわかる」「価値と自身をつなぐ」「価値を生かす」で学びの姿を評価した。
R5	複高	道徳	11 特別の教科 道徳学習指導案（小学校）.pdf	授業分析・評価力	○15人中15人の児童の記述がICEルーブリックに該当する。	ふり返りの意味や道徳科の学びの意味を日々伝える。
R6	小3	道徳	12.1 道徳学習指導案.pdf	授業分析・評価力	○これからも、縦のつながりを大切にしたいです。理由は、上級生や下級生ともっと絆を深めたいと思ったからです。（ワークシート記述）	「東雲家族」として、これからも大切にしていきたいことや、守り続けたい文化は何ですか。という発問に対して、ICEルーブリックで分類した。
R6	小3	道徳	12.1 道徳学習指導案.pdf	授業構想力	○「東雲家族」は、行事以外でもつながっていることが分かった。（ワークシート記述）	児童の意識をつなげるために、毎時間の振り返りを書く「単元シート」を作成した。
R6	小3	道徳	12.1 道徳学習指導案.pdf	授業構想力	○これから大切にしたいことは、卒業した6年生や違う学校へ行った友達、先生を忘れないことです。（ワークシート記述）	よりよい学校生活、集団生活の充実を考えるために、自作教材を提示した。
R6	小3	道徳	12.1 道徳学習指導案.pdf	授業構想力	○「東雲家族」は、歌、挨拶、横と縦のつながり全部で仲良くなっているなど思いました。（ワークシート記述）	「しのめ祭り」や「なわとびオリエンテーション」など、これまで学習してきたことを掲示した。